

書籍の紹介



日本の古典文学「平治物語」 と世界初のミスコンテスト

The Japanese classic literature "Heiji Monogatari"
and the world's first Beauty Contest

信州大学大学院総合工学系研究科 太田 和親

Shinshu University, Kazuchika Ohta

〒386-8567 長野県上田市常田 3-15-1

e-mail: ko52517@shinshu-u.ac.jp

はじめに

ミスコンテストは、ほとんどの日本人が、西洋で始まったと信じているようですが、それは間違いです。世界最初のミスコンテストは、平安時代末期の京都で行われました。ウィキペディアも間違っていて、ミスコンテストは、1888年にベルギーで行われたコンクール・ド・ボーテ (Concours de Beauté = 美人コンクール) が世界最初で、日本で最初に行われた美人コンテストは、明治時代だとしています。しかし、これらは、いずれも間違いです。本拙文は日本最初、ひいては世界最初の美人コンテストは、平安時代に書かれた「平治物語」に出てくるというお話と、絶世の美女常盤御前にまつわるお話をいたします。

「平治物語」に出てくる美人コンテスト

日本最初の美人コンテストは、日本の古典に記載があります。これに気づいたのは20年ほど前です。理系の私は一念発起して、日本の古典文学を全て読破しようと、そのころから記紀(「古事記」、「日本書紀」)を手はじめに、「源氏物語」や「平家物語」、「今昔物語」、「保元物語」、「平治物語」、「義経記」などを次々と読んでいました。その中で、平治の乱を扱った「平治物語」を読んでいた時、大変印象に残ったことが二つありました。

その一つは、美人コンテストが、日本の京の都で平安時代の末期の西暦1150年ごろに行われていたことです。「平治物語」には、「美人の独身の応募者1000人から、100人の美人をまず選び抜き、さらにその中から10人の美人を最終選考で選りすぐって、宮中女官(雑仕女:ぞうしめ)として採用した。この選りすぐりの美人10人の中でも、一番美しかったのは、常葉(ときは)という15歳の女性だった。」ということが載っています。これは、今でいうミスコンテストに他なりません。しかしながら、昨今のウィキペディアには、

日本で最初の美人コンテストは、明治時代だと書かれています。「平治物語」を読んだことのある私は、そんな馬鹿なと思いました。そんなのは、日本の古典を読んでいないからだ、私はすぐ思ったのでした。また、これは世界最初の美人コンテストでもあります。したがって、ウィキペディアの記述は間違っています。このような間違いは、日本の古典を、日本人も西洋人も読んでいないからでしょう。幅広く古典を読むことは、正しい歴史を知ることにつながることを実感した次第です。

常盤御前の3人の幼子を連れた雪中逃避行

「平治物語」を読んでいた時、大変印象に残ったことのもう一つは、次のような、常盤御前の、3人の幼子を連れた雪中逃避行でした。

1000人の美人から選び抜かれた絶世の美女は、常葉（ときは）と上で述べましたが、歴史上では、源義経を生んだお母さんの常盤御前のことです。宮中に勤めていた常葉は、後に、源義朝に見初められて側室となり、3人の男の子を生みます。ところが、源義朝が平治の乱で敗死し、源氏の血を引く常盤御前の3人の男の子は、清盛から殺害命令が下ります。平氏は、源氏を根絶やしにするため、源氏の血をひくものは、子供であろうと全てを探し出して、殺害されることになったのです。今でいうジェノサイド（民族の集団殺戮）です。そこで、常盤御前は、雪の中、幼い3人の子を連れて、雪中逃避行を実行します。雪の中、7歳、5歳、1歳(牛若丸：後の義経)の幼子を連れ、京から奈良の方向へ逃げますが、子供を支えきれなくなり、鄙びた農家に助けを求めますが、かわりになり清盛からの嫌疑がかかることを恐れて、皆戸を閉ざして入れてくれません。雪の中とうとう凍え死にそうになった時、ようやくある農家の老夫婦が、あまりの惨状を見かねて、家に迎え入れてくれ、子供たちが囲炉裏にあたれるようにして、また食べ物も出してくれました（注1）。

私は、このところを読んで、私の父母が、5歳と2歳の幼い兄2人を連れて満州から大逃避行をしたときのことを思い出しました。昭和20年8月9日ソ連が日ソ不可侵条約（正式名：日ソ中立条約）を破って攻め込んできた満州国牡丹江市から、命からがら、父母は幼い2人の兄を連れて、ハルビン、安東、ソウル、釜山へ、大逃避行をして、9月1日にようやく日本に生きて帰ってきました。一日でも逃避行が遅れば、おそらく一家全滅していたことでしょう。そして、戦後私が生まれることもなかったと思います（注2）。なので、この「平治物語」下巻第6章に描写された、常盤御前が幼子3人を連れて雪中逃避行をしたときの惨状や気持ちを思うと、読みながら涙が出ました。

おわりに

ジェノサイドの恐怖がいかばかりか、平和な現代の日本人には想像ができる人が極めて

少なくなってしまうと思いますが、今一度、常盤御前の雪中逃避行や、満州での引き揚げ者の悲惨な逃避行の歴史を知ってもらいたと思います。そして、昨今のロシアの軍事侵攻から逃れるウクライナ国民の恐怖や大逃避行の苦難に、日本国民は鈍感になってはいけないと思います。

注1：参照「平治物語」下巻第六章附、常葉が落ち延びること

注2：参照「20世紀の記録として残しておきたいこと」

<http://www13.ueda.ne.jp/~ko52517/fl.htm>